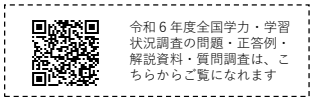


<調査の概要>

1. 調査の目的
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
2. 調査実施日 令和6年4月18日（木）
3. 調査の対象 小学6年生：国語・算数・質問調査
中学3年生：国語・数学・質問調査



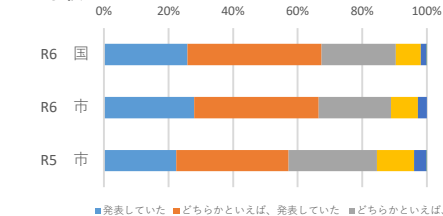
<調査結果の概要>

- ・教科に係る結果では、小中学校とも、いずれの教科においても全国と比べて低い状況が続いています。中学校では数学の平均正答率の対全国比が上昇しており、改善傾向が見られます。
- ・平均正答率40%以下の児童生徒の割合は、中学校の国語・数学では改善傾向が見られますが、小学校国語・算数では昨年度より高くなっていました。基礎的・基本的な学力の定着のみならず、それらを活用する力を育成することが必要であると考えられます。
- ・児童生徒の質問調査では、授業の中で対話を通して自分の考えを深めたり、表現の仕方について工夫したりしたと答えた児童生徒は昨年度よりも増加していますが、全国に比べて低いことが見て取れます。「主体的・対話的で深い学び」を実現することで、児童生徒の表現力の育成が必要であると考えられます。
- ・教育委員会としては、児童生徒が学力を着実に身につけることのできる授業を全ての教室で実現できるよう、引き続き取組みを強化していきます。また、児童生徒の生活習慣・学習習慣にも依然として大きな課題があることから、学校が家庭・地域とより一層連携した教育活動が進められるよう支援していきます。

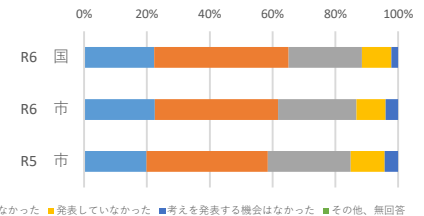
<質問調査（抜粋）>

- 「5年生（1,2年生）の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

<小学校>

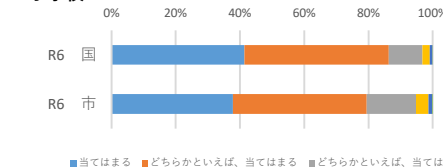


<中学校>

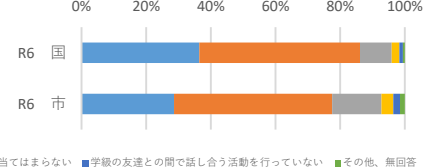


- 「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」

<小学校>



<中学校>



「5年生（1,2年生）の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」では、令和5年度よりも改善されていますが、全国よりも低い状況です。

また、「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」は今年度から調査された項目ですが、小学校・中学校ともに全国よりも低い状況です。

<教科の平均正答率>

| 小学校 | 令和3年度 | | | 令和4年度 | | | 令和5年度 | | | 令和6年度 | | |
|-----|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|
| | 岸和田市 | 全国 | 対全国比 | 岸和田市 | 全国 | 対全国比 | 岸和田市 | 全国 | 対全国比 | 岸和田市 | 全国 | 対全国比 |
| 国語 | 55 | 64.7 | 0.85 | 56 | 65.6 | 0.85 | 61 | 67.2 | 0.91 | 59 | 67.7 | 0.87 |
| 算数 | 64 | 70.2 | 0.91 | 57 | 63.2 | 0.90 | 57 | 62.5 | 0.91 | 55 | 63.4 | 0.87 |
| 理科 | | | | 53 | 63.3 | 0.84 | | | | | | |

| 中学校 | 令和3年度 | | | 令和4年度 | | | 令和5年度 | | | 令和6年度 | | |
|-----|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|
| | 岸和田市 | 全国 | 対全国比 | 岸和田市 | 全国 | 対全国比 | 岸和田市 | 全国 | 対全国比 | 岸和田市 | 全国 | 対全国比 |
| 国語 | 55 | 64.6 | 0.85 | 59 | 69 | 0.86 | 61 | 69.8 | 0.87 | 49 | 58.1 | 0.84 |
| 数学 | 48 | 57.2 | 0.84 | 43 | 51.4 | 0.84 | 41 | 51.0 | 0.80 | 43 | 52.5 | 0.82 |
| 理科 | | | | 40 | 49.3 | 0.81 | | | | | | |
| 英語 | | | | | | | 37 | 45.6 | 0.81 | | | |

・平均正答率の対全国比は昨年度と比較すると、小学校国語・算数ともに0.04ポイント、中学校国語では0.03ポイント下回る結果でした。一方、中学校数学では0.02ポイント上回る結果でした。主な課題は下記の通りです。

<小学校>

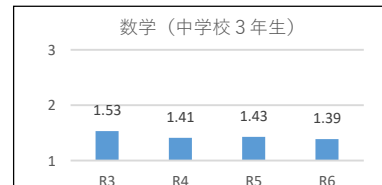
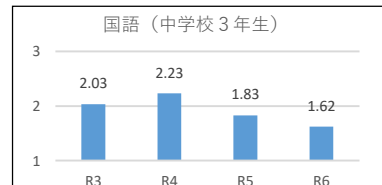
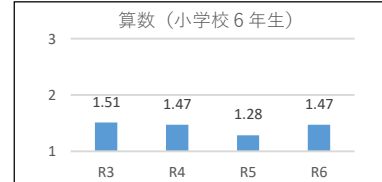
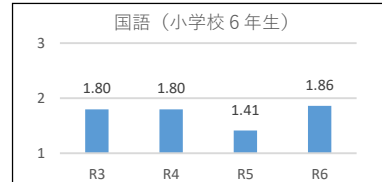
- 国語：資料を活用したり、目的や意図に応じて事実と感想・意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように工夫すること。
- 算数：球の直径の長さなど立方体の一辺の長さの関係性を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すこと。道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること。

<中学校>

- 国語：意見と根拠、全体と部分、主張と例示などの関係について捉え、理解すること。他者の発言と結び付けたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わるように表現すること。
- 数学：複数の集団のデータ分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。

・国語・算数/数学ともに「考えを伝える・説明する力」が課題であるといえます。問題解決的な学習の中で自分の考えを分かりやすくまとめ、表現する活動が必要と考えられます。また、子どもたちがお互いの説明を聞き合う中でよりよい表現の仕方に気づき、深めていけるような学習を進めていくことで、力がついていくと考えられます。

<正答率40%以下の児童生徒の割合（全国を1とした場合）>

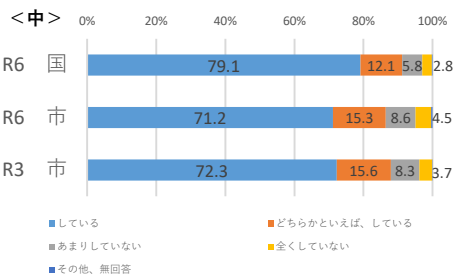
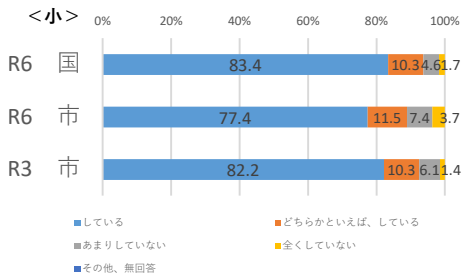


正答率40%以下の児童生徒の状況は、中学校国語・数学では、全国に比べて高い割合であるものの改善傾向が見られました。一方、小学校では国語・算数ともに割合が増加しています。個別最適な学び（児童生徒の定着度や興味関心に基づいた学び等）や協働的な学びを充実させ、学習したことを活用していく力を育成する必要があると考えられます。

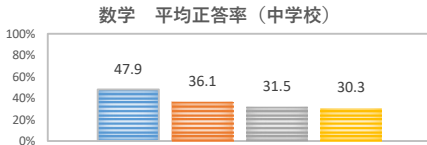
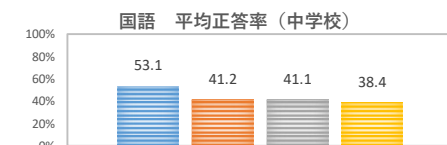
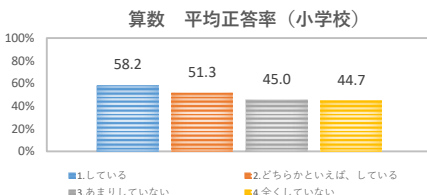
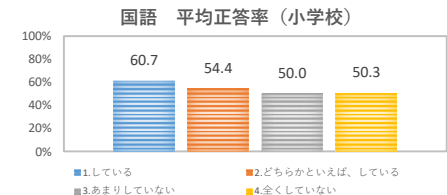
学習内容の定着に向けては、小学校で放課後学習支援事業（まなびサポート）を、幼稚園・小学校で学びの土台づくり推進事業（コグトレ）を引き続き実施するとともに、全小中学校に学習支援員を配置し、学習内容の定着に課題のある児童生徒へのきめ細かな支援を実施してまいります。

<質問調査の結果概要>

朝食を毎日食べていますか



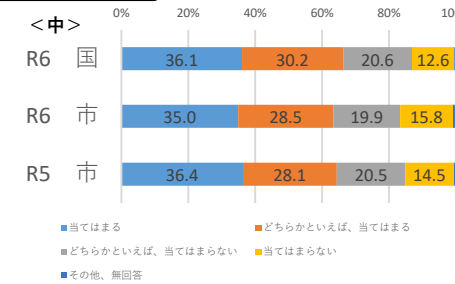
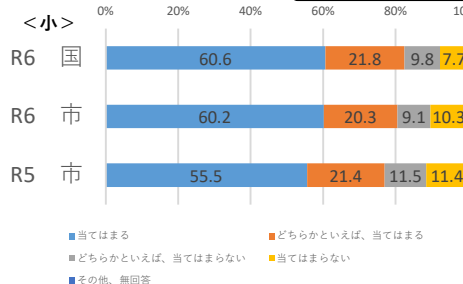
朝食を毎日食べていますか × 各教科平均正答率



「朝食を毎日食べていますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、中学校では大きな変化はありませんでしたが、小学校では「毎日食べている」と答えた児童の割合は年々減少しており、令和3年度からは4.8ポイント減少しています。各教科の平均正答率とのクロス集計※では、毎日朝食を食べている児童生徒の方が正答率が高くなっています。生活習慣が整うことによって、心身ともに安定した状態で学習に向かうことができます。

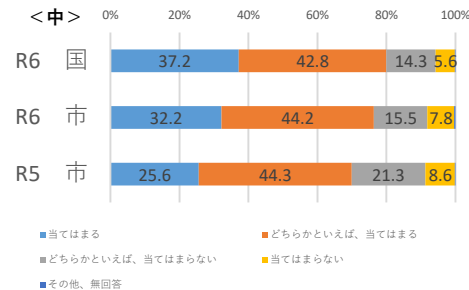
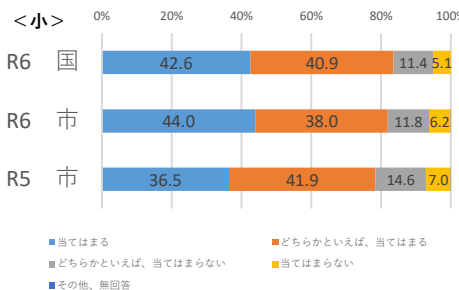
※クロス集計…ここでは、質問に対する回答と平均正答率（たて軸）との関係を表しています。

将来の夢や目標を持っていますか



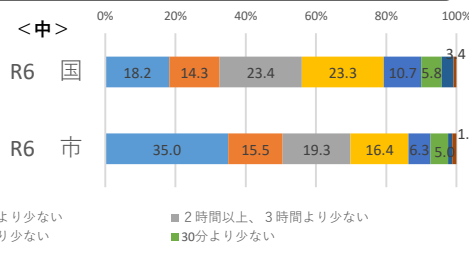
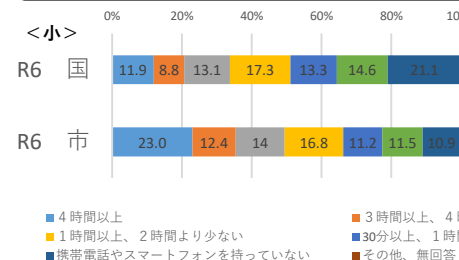
「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、肯定的な回答をする児童生徒の割合は、小学校では3.6ポイント増加し、中学校では昨年度から大きな変化はありません。子どもたちが夢や目標を持てるような取り組みを、学校や家庭・地域でさらに進めていく必要があります。

自分には、よいところがあると思いますか

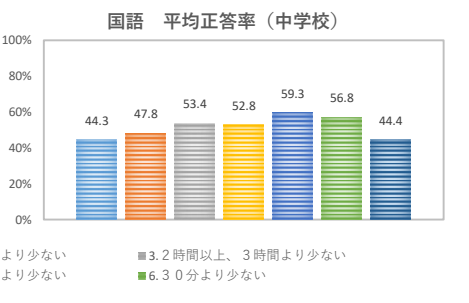
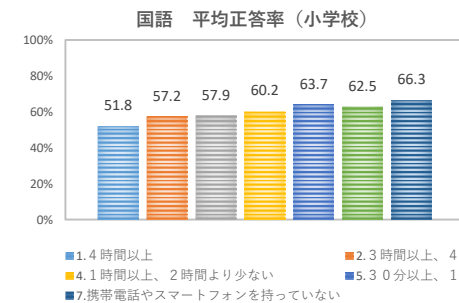


「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、昨年度と比較すると、小中学校ともに上回りました。また、令和3年度と比較すると、肯定回答の割合が小学校は9.3ポイント、中学校は10.2ポイント増加していました。各校の自己肯定感を高め、成長を促す取り組みの成果がでていると考えられますが、より一層取り組みを進める必要があります。

普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間を除く）



普段1日当たりの携帯電話やスマートフォンでのSNSや動画視聴時間 × 国語平均正答率



「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間を除く）」という質問に対して4時間以上と回答をした児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに全国の2倍以上という状況です。また、各教科の平均正答率とのクロス集計では、小学校では利用時間が少ないほど、中学校では30分から1時間と時間を決めて利用しているほど、正答率が高くなっています。携帯電話やスマートフォンの利用時間が多くなることで家庭学習の時間が確保できていないことが考えられます。さらに、自分で携帯電話やスマートフォンとの付き合い方・家庭学習の時間を調整する力をつけることが、学力の向上に関係すると考えられます。引き続き児童生徒の生活習慣・学習習慣の定着に向けて、家庭と学校が協力して取り組んでいく必要があります。

＜調査の概要＞

1. 調査実施日 令和6年4月19日（金）
2. 調査の対象 大阪府内小学校、義務教育学校前期課程及び支援学校小学部の第5・6学年
3. 調査の内容 5年生：国語、算数、理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
6年生：理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
4. 実施児童数 5年生：1,494名 6年生：1,549名 合計：3,043名

＜調査結果の概要＞

本市5年生の平均正答率の対府比は、昨年度から国語で0.01ポイント、理科で0.05ポイント上回り、算数では0.07ポイント下回りました。6年生理科の平均正答率の対府比は、昨年度から0.02ポイント下回りました。

5・6年生の「わくわく問題（教科横断型問題）」は、府の平均正答率を下回っており、対府比では昨年度から0.04ポイント下回りました。

各教科の現状から、漢字の書き取りやローマ字の読みなどが改善されるなど、基礎的基本的な知識理解については一定の成果がみられます。しかし、特に算数で問われた「数学的な表現」「意味理解」「日常の事象を数学的に処理する技能」については大きな課題があると言えます。

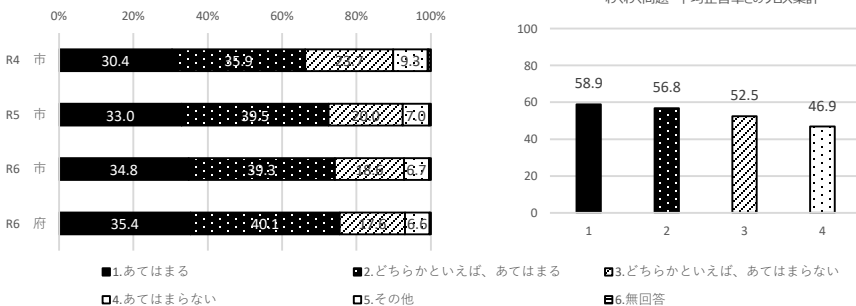
また、わくわく問題（教科横断型問題）の現状から、図や表、グラフ等から内容を正しく読み取り、それらの内容と関連付けて論理的に考えたり、新たな課題を考えたりすることに課題があると言えます。

明らかになった課題の改善のためには、各教科等の授業の中で問題発見・解決的、探究的な学びを実践していくことが必要です。この学びの中で、これまで身に付けてきた知識・技能を活用していくことで、学習の定着や学習への興味関心を高めることにつながります。

3年前から取り組んでいる「学びの土台づくり推進事業（コグトレ）」によって学びの土台となる「認知機能」を高めつつ、ICT機器や学校図書館を活用した学習支援などを強化するなど、教育委員会・小中学校が一体となって、岸和田市の子どもたちの学力向上に取り組んでまいります。

＜児童アンケート結果（抜粋）＞

話し合いをするとき、自分の意見と他の人の意見を比べている



アンケートの項目「話し合いをするとき、自分の意見と他の人の意見を比べている」では、肯定的な意見が令和4年度から増加しています。このことから、子どもたちは授業中の話し合いの際、自分の意見をもち、他の人の意見とを比べながら話し合うように意識していることが分かります。また、「わくわく問題 平均正答率とのクロス集計」では、肯定的な回答をしているほど、平均正答率が高くなっています。このことから、自分の意見と他の人の意見の共通点・相違点を考えながら話を聞き、自分の意見を伝えることによって、学習の定着や広がり・深まりが期待されることが分かります。

対話的な活動を必要に応じて展開し、さらにその対話の質が高まるよう、発達段階に応じて指導していく授業づくりを推進してまいります。

＜各教科平均正答率＞

| | 令和3年度 | | | 令和4年度 | | | 令和5年度 | | | 令和6年度 | | |
|--------|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|------|
| | 岸和田市 | 大阪府 | 対府比 | 岸和田市 | 大阪府 | 対府比 | 岸和田市 | 大阪府 | 対府比 | 岸和田市 | 大阪府 | 対府比 |
| 国語(5年) | 76.0 | 81.6 | 0.93 | 71.8 | 76.8 | 0.93 | 71.5 | 78.3 | 0.91 | 67.8 | 73.4 | 0.92 |
| 算数(5年) | 42.0 | 48.5 | 0.87 | 36.4 | 42.0 | 0.87 | 31.1 | 37.5 | 0.83 | 28.0 | 36.7 | 0.76 |
| 理科(5年) | 42.9 | 49.2 | 0.87 | 66.2 | 72.2 | 0.92 | 54.6 | 62.3 | 0.88 | 57.6 | 61.9 | 0.93 |
| 理科(6年) | | | | | | | 67.7 | 73.1 | 0.93 | 58.0 | 63.7 | 0.91 |

◎良好なところ◎

＜国語＞

- ・書かれた文の意味を正しく捉え、適切な漢字を使って書くこと
- ・ローマ字を正しく読むこと

＜算数＞

- ・直線の垂直や長方形の性質を理解し、道のりを求めること

＜理科＞

- ・虫眼鏡での光の集め方と温かさの変化についての理解（5,6年生）
- ・磁石を引き付ける力と対象物との距離の関係について理解すること（5年生）
- ・電磁石が実際にどのように使われているか考えること（6年生）

▲課題となるところ▲

＜国語＞

- ・助詞を正しく使うこと
- ・主語・述語の関係を正しく捉えること
- ・故事成語の意味を正しく理解すること
- ・文の意味を変えないように、適切な接続表現を使って二文を一文にすること

＜算数＞

- ・伴って変わる二つの数量の関係を読み取り、記号を用いてその関係を式で表すこと
- ・グラフから読み取れることや、二つの数量の関係性などについて説明をすること

＜理科＞

- ・昆虫の育ち方の順序と名称を理解すること
- ・方位磁針の性質から、地球の磁場について考え、書き表すこと
- ・振り子の実験において、時間を測定する際の誤差を小さくする方法について理解すること

＜小学校5・6年＞【わくわく問題（教科横断型問題）】＞

| | | 令和4年度 | | | 令和5年度 | | | 令和6年度 | | |
|----|---|------------|------------|------|------------|------------|------|------------|------------|------|
| | | 市 平均正答率 | 府 平均正答率 | 対府比 | 市 平均正答率 | 府 平均正答率 | 対府比 | 市 平均正答率 | 府 平均正答率 | 対府比 |
| 全体 | | 59.3 | 64.5 | 0.92 | 65.9 | 71.4 | 0.92 | 55.5 | 63.3 | 0.88 |
| 観点 | A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。 | 49.2 | 52.4 | 0.94 | 74.4 | 80.0 | 0.93 | 57.5 | 65.6 | 0.88 |
| | B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。 | 62.4 | 68.5 | 0.91 | 51.5 | 56.9 | 0.90 | 48.3 | 56.5 | 0.86 |
| | C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。 | 73.8 | 79.5 | 0.93 | 67.3 | 75.4 | 0.89 | 59.0 | 68.8 | 0.86 |
| | D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。 | 62.3 | 68.1 | 0.91 | 62.7 | 68.6 | 0.91 | 65.8 | 74.3 | 0.89 |
| | E 興味・関心のある事柄について、意欲的に工夫して相手に伝える。 | 74.4 | 82.6 | 0.90 | 84.8 | 89.5 | 0.95 | 79.3 | 85.3 | 0.93 |

◎良好なところ◎

- ・興味・関心のある事柄について、意欲的に取り組むこと

▲課題となるところ▲

- ・身近なところから課題を見だし、それと関連付けて自分の考えたことを説明すること
- ・複数の資料から共通点・相違点を見だし、表に整理すること

<調査の概要>

1. 調査の目的 児童の学力の状況と課題をより的確に把握し、それに応じた学習指導の改善や充実に役立てる。
2. 調査実施日 令和 6 年 4 月 24 日（水）
3. 調査の対象 市内小学校 3・4 年生
（3 年生：1,349 名 4 年生：1,402 名 合計：2,751 名）
4. 調査の内容 国語、算数

<国語の結果>

| 3 年生 | | 令和 5 年度 | | 令和 6 年度 | |
|----------|-------------------------|-----------|----------|-----------|----------|
| | | 平均正 答率 | 対全国 比 | 平均正 答率 | 対全国 比 |
| | | 市 | | 市 | |
| 全体 | | 61.8 | 0.85 | 62.0 | 0.85 |
| 観点別 | 知識・技能 | 68.8 | 0.86 | 69.2 | 0.89 |
| | 思考・判断・ 表現 | 54.9 | 0.84 | 52.9 | 0.80 |
| 領域 | 言葉の特徴や 使い方に関する 事項 | 74.8 | 0.87 | 78.5 | 0.91 |
| | 情報の扱い方 に関する事項 | 42.0 | 0.80 | 27.8 | 0.70 |
| | 話すこと・聞 くこと | 62.0 | 0.85 | 71.2 | 0.89 |
| | 書くこと | 47.4 | 0.84 | 36.9 | 0.67 |
| | 読むこと | 57.5 | 0.82 | 57.1 | 0.84 |
| | | | | | |
| 解答 形式 | 選択 | 61.9 | 0.86 | 59.2 | 0.85 |
| | 短答 | 70.3 | 0.85 | 77.3 | 0.91 |
| | 記述 | 46.5 | 0.84 | 40.1 | 0.71 |
| | | | | | |

| 4 年生 | | 令和 5 年度 | | 令和 6 年度 | |
|----------|-------------------------|-----------|----------|-----------|----------|
| | | 平均正 答率 | 対全国 比 | 平均正 答率 | 対全国 比 |
| | | 市 | | 市 | |
| 全体 | | 62.9 | 0.89 | 60.3 | 0.82 |
| 観点別 | 知識・技能 | 63.8 | 0.89 | 59.2 | 0.82 |
| | 思考・判断・ 表現 | 55.7 | 0.87 | 56.3 | 0.81 |
| 領域 | 言葉の特徴や 使い方に関する 事項 | 69.0 | 0.89 | 61.3 | 0.81 |
| | 情報の扱い方 に関する事項 | 40.8 | 0.82 | 42.9 | 0.81 |
| | 我が国の言語 文化に関する 事項 | 81.1 | 1.00 | 73.1 | 0.88 |
| | 話すこと・聞 くこと | 75.0 | 0.91 | 73.5 | 0.90 |
| | 書くこと | 41.6 | 0.80 | 41.3 | 0.71 |
| | 読むこと | 60.0 | 0.90 | 62.7 | 0.84 |
| 解答 形式 | 選択 | 65.4 | 0.90 | 67.9 | 0.86 |
| | 短答 | 75.2 | 0.91 | 61.8 | 0.83 |
| | 記述 | 43.0 | 0.80 | 39.9 | 0.70 |
| | | | | | |

◎良かった点

- ・漢字の読みや身近なことを表す語句（対義語）についての理解（3 年生）
- ・話を聞く際、話し手が伝えたいことの中心や話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えること（4 年生）

▲課題点

- ・語と語、文と文の続き方に注意しながら読み取ったり、文章を書いたりすること。（3 年生では順序を表す言葉）
- ・漢字やローマ字、主語述語の関係など、言葉に関する基本的な知識。
- ・叙述をもとに内容を捉えたり、登場人物の様子や気持ちを捉えること。
- ・指定された長さや段落構成で文章を書くこと。また、自分の考えやその理由を明確にして文章を書くこと。

<調査結果の概要>

- ・全体の傾向として、3,4 年生ともに、全国の平均正答率を下回る結果でした。また、昨年度の結果と比較すると、4 年生の国語と 3 年生算数において、対全国比が低くなりました。
- ・国語の課題は、「情報と情報の関係を理解すること」（共通・相違・順序、理由と事例、全体と中心など）や「指定された条件で自分の考えを書くこと」が挙げられます。
- ・算数の課題は、「数量感覚」や「計算の意味や図形の性質等を理解して説明すること」が挙げられます。
- ・日々の授業の中で叙述を基にして読み取ったり、自分の考えを共有する活動や日常生活の中から書くことを見つけ、構成を考えながら文章にする活動を積み重ねていく必要があります。また、数量感覚等は日常生活と学習とを結び付けたり、数学的な活動を十分行ったりすることで身に付けていくことが大切です。
- ・身に付けた知識や技能が活用できるよう、生活や社会の中から問いを見つけ、情報を整理・分析し、言葉や図・表などを使って表現する学習（問題発見・解決学習）を今後も一層継続・推進してまいります。

<算数の結果>

| 3 年生 | | 令和 5 年度 | | 令和 6 年度 | |
|----------|--------------|-----------|----------|-----------|----------|
| | | 平均正 答率 | 対全国 比 | 平均正 答率 | 対全国 比 |
| | | 市 | | 市 | |
| 全体 | | 67.5 | 0.90 | 68.4 | 0.88 |
| 観点別 | 知識・技能 | 71.6 | 0.92 | 71.2 | 0.89 |
| | 思考・判 断・表現 | 49.8 | 0.84 | 53.1 | 0.81 |
| 領域 | 数と計算 | 69.7 | 0.90 | 70.0 | 0.88 |
| | 図形 | 50.9 | 0.84 | 62.3 | 0.86 |
| | 測定 | 70.5 | 0.93 | 65.6 | 0.86 |
| | データの活 用 | 81.8 | 0.99 | 78.4 | 0.92 |
| 解答 形式 | 選択 | 67.9 | 0.90 | 64.8 | 0.87 |
| | 短答 | 70.3 | 0.91 | 74.9 | 0.89 |
| | 記述 | 16.6 | 0.77 | 48.0 | 0.74 |

| 4 年生 | | 令和 5 年度 | | 令和 6 年度 | |
|----------|--------------|-----------|----------|-----------|----------|
| | | 平均正 答率 | 対全国 比 | 平均正 答率 | 対全国 比 |
| | | 市 | | 市 | |
| 全体 | | 64.5 | 0.90 | 64.8 | 0.90 |
| 観点別 | 知識・技能 | 70.1 | 0.92 | 68.4 | 0.91 |
| | 思考・判 断・表現 | 44.6 | 0.81 | 51.9 | 0.84 |
| 領域 | 数と計算 | 64.2 | 0.89 | 61.6 | 0.88 |
| | 図形 | 66.9 | 0.90 | 69.6 | 0.91 |
| | 測定 | 57.8 | 0.89 | 75.0 | 0.92 |
| | データの活 用 | 84.2 | 0.98 | 65.2 | 0.93 |
| 解答 形式 | 選択 | 64.7 | 0.90 | 65.7 | 0.90 |
| | 短答 | 67.8 | 0.89 | 67.5 | 0.91 |
| | 記述 | 40.0 | 0.86 | 39.6 | 0.76 |

◎良かった点

- ・4 位数の数の表し方（3 年生）や小数のしくみについての理解（4 年生）
- ・かけ算やわり算、同分母の分数の計算
- ・グラフから数量等を正しく読み取ること。

▲課題点

- ・数の大小についての理解（3 年生）や数量感覚（4 年生）。また、長さやかさについての量感。
- ・「倍」についての理解。
- ・文章に即した立式をすること。また、式や計算の仕方を理解し、説明すること。
- ・直方体についての面の形や数、辺の長さや数を理解し、それを活用して問題を解くこと。
- ・グラフの読み方の間違いの理由に気づき、言葉で説明をすること。